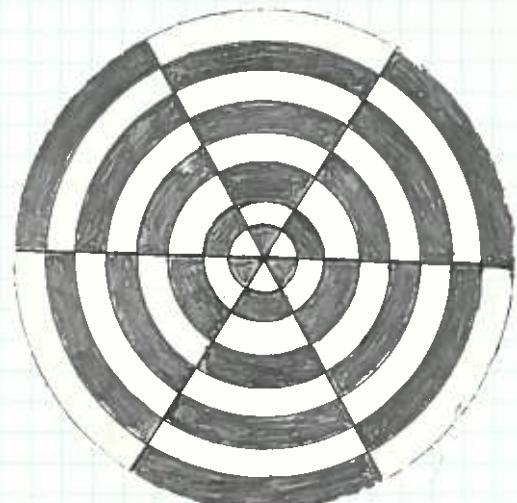
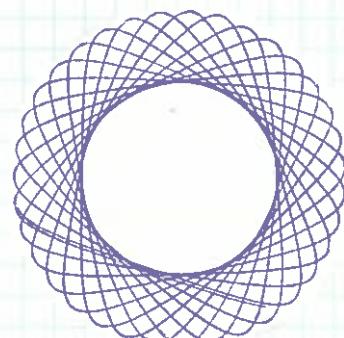
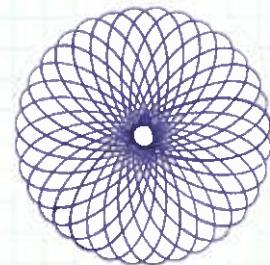


東京五輪エコデザインに見る

日本の伝統文様



6年 早川英輝



目次

・はじめに …… 2~3ページ

① 日本の文様を知る

- A. 連続文様
- B. 絵画的文様 …… 4ページ
- C. 名称と構成 …… 5ページ
- D. 遊びの精神 …… 6ページ

② 時代による変化

- A. 飛鳥・奈良時代 …… 7ページ
- B. 平安・鎌倉時代 …… 8ページ
- C. 室町・桃山時代 …… 9ページ
- D. 江戸時代 …… 10~11ページ

③ 伝統文様を描いてみる …… 12ページ

④ 幾何学模様を描いてみる …… 13ページ

⑤ コンパスで三巴(みつとも)を
描いてみる …… 14ページ

⑥ もんぎりがた(紋切型)に
挑戦 …… 15ページ

⑦ 調べて分かたこと・参考資料 …… 16ページ

・おわりに …… 17ページ

はじめに

ぼくがこの調べ学習をしようとしたきっかけは、2016年4月26日の朝、
中日新聞に掲載されたこの記事です。

五輪エンブレム「組市松紋」

野老さんデザイン

心募作品から絞り込んだ最

つたチエック柄を伝統色の藍色で描いた作品A「組市松紋」を採用すると発表した。作者は東京都在住のアーティスト、野老朝雄さん(四六)。旧エフブレムの白紙撤回から七ヵ月余、大会の「顔」がようやく決まった。――関連④面、社説⑤面

1964年東京五輪・パラリンピック組織委員会は十五日、新たな大会エンブレムに、江戸時代に市松模様として広ま



2020年東京五輪・パラリンピックのエンブレムを制作した野老朝雄さん=25日午後、東京都港区（岩本旭人撮影）

野老さんは、東京都港区であつた発表会で「頭が真っ白。とても長い時間をかけて作図し、わが子のよ

人が記名投票した結果、一回目でAが過半数の十三票を獲得した。宮田亮平委員長（文化庁長官）は、作品Aに関して「市松模様は世界中で愛されている。眞鍊でありながら多弁で、日本人らしさを秘めている」と評価。ほかに朝顔を描いたのは五票、風神・雷神をモチーフにしたCは二票、輪をデザインしたBは一票だった。

終候補四作品を対象に、この日のエンブレム委員会で最終審査を実施。組織委によると、元プロ野球選手の王貞治さんら有識者二十一人が記名投票した結果、一向回目でAが過半数の十三票を獲得した。

宮田亮平委員長（文化庁長官）は、作品Aに関して「市松模様は世界中で愛されている。眞理でありながら多弁で、日本人らしさを秘めている」と評価。ほかに朝顔を描いたDは五票、に朝顔を描いたDは五票、と評価。ほかに朝顔を描いたDは五票、

大會エンブレムをめぐらしては、昨年七月に発表された佐野研二郎さんの作品に盜用疑惑が広がり、同九月に白紙撤回された。た。賞金百万円や大会開催式入場券の目録を手にし、た。

下馬評覆し「藍」

大会エンブレム最終候補への主な意見と投票結果	最終候補作品		国民からの主な意見	投票結果
	作品A	作品B		
作品A			<input checked="" type="radio"/> シンプルでよい／日本の粹を感じる／クールな印象 <input checked="" type="checkbox"/> 鮮やかさに欠ける／色使いが地味／躍動感がない	13
作品B			<input checked="" type="radio"/> 跳躍感がある／一体感を連想／色合いが力強い <input checked="" type="checkbox"/> 東京・日本らしさが感じられない／無難ありきたり	1
作品C			<input checked="" type="radio"/> 跳躍感がある／ゴールテープを切る姿に見えてよい <input checked="" type="checkbox"/> デザインに日本らしさを感じない／言わわれないと國神・雷神と分からぬ	2
作品D			<input checked="" type="radio"/> 日本らしさを感じる／花咲くモチーフがよい／明るい <input checked="" type="checkbox"/> スポーツらしくない／すぐに散ってしまいそう	5

*左が五輪、右がパラリンピック。Tokyo 2020運行

「この場にいることを誇りに思つ」。二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの新しい大会公式エンブレムに採用された「組市松紋」をデザインしたアーティストの野老朝雄さん(四〇)は、東京都在住は二十五日の会見で緊張氣味に喜びを語った。

手掛けた新エンブレムは、形の異なる三種類の四角形を組み合わせ、「多様性と調和」を表現。藍色の単色にした理由について、「江戸小紋の細地に白のよう、潔い表現ができるね」と思った。夏の大会なので、少し涼しげなものがいいのではないか」と説明し、オノの設計にも参加した。

野老さんは東京造形大学で建築を学んだ。ホームページによると、〇五年愛知万博でトヨタグループパビリオンの設計にも参加した。

始めたのは、〇一年九月十一日の米中枢同時テロがきっかけ。「大きな断絶に對して、くつつくといふ」とが作品の大きな主題となつた。今回の作品でも、四角形のバーツを組み合わせて「つながり」を描いた。五輪とバラリンピックのエンブレムには「同じく四十五個のバーツを使っており、平等の精神」という意味も込めた」と語った。

「わが子のような作品。いろんなかたちで広がつて、つながつていってほしい」。大糸の「顔」に決まつた新エンブレムにメッセージを託した。

作者の野老朝雄さん

「つながり」紋様に込め



2020年東京五輪・パラリンピックの公式エンブレムが決定し、記者会見する（右から）組織委員会の武藤敏郎事務総長、作者の野老朝雄さん、エンブレム委員会の宮田亮平委員長、王貞治さん

意外性も狙いだったか

元五輪マラソン代表でスポーツライターの増田明美さんの話 一見すると地味だが、日本らしさやわびさびを表現したいいデザインだと思う。従来のハイテンションな五輪のイメージとは違った、一步引くような日本の美学を感じる。個人的には、Dを予想していたので、びっくりした。意外性も狙いだったのかもしれない。エンブレムを巡ってはさまざまな経緯があり、そんな中で新たなデザインを応募するのは相当プレッシャーがあったと思う。集まった注目をして、本番に向かえればいい。

ネット投票やれば良かった

コラムニストの辛酸なめ子さんの話 4案の中ではAが一番洗練されていると感じた。すっきりしておしゃれで、景色を邪魔せず、適度に奥ゆかしい。私も今回エンブレムに応募し、参加した気分になれた。選考のやり直しは大変だったと思うが、せっかくならインターネット投票もやれば良かった。

（二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの新しい大会公式エンブレムは二十五日、藍色でチェック柄の「組市松紋」に決まった。）

（意外だ）。各地では賛否さきまざな声が入り交じった。「動きがあるて、広がつていくようなイメージを感じる。藍色だけの色合いが日本らしくて良い」と高く評価するのは京都市上京区の自営業浅田和義さん（左）。「（撤回思っていた）と語った。

（二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの新しい大会公式エンブレムは二十五日、藍色でチェック柄の「組市松紋」に決まった。）

（意外だ）。各地では賛否さきまざな声が入り交じった。

（動きがあるて、広がつていくようなイメージを感じる。藍色だけの色合いが日本らしくて良い」と高く評価す

（いふ。震災やテロで大変な世の中だから、大会も派手にしないでほしい」と話した。）

（野老朝雄さん監修で企画展をしたばかりという青森市の国際芸術センター・青森の学芸

（金子由紀子さんは「野

（老夫人らしいてきてな

（））とおっしゃってな

（））とおっしゃってな

（））とおっしゃってな

（））とおっしゃってな

（））とおっしゃってな

組市松紋に賛否分かれる

五輪エンブレム問題の経過

2015年	7月24日	大会組織委員会が佐野研二郎氏デザインのエンブレムを発表
	29日	ベルギーの劇場ロゴのデザイナーが「驚くほど似ている」として弁護士と対応を協議していることが判明
	8月13日	サントリービールが、佐野氏のキャンペーン賞品のデザインに既存商品と似たものがあるとして一部取り下げ
	14日	ベルギーの劇場側がエンブレム使用差し止めを求めて提訴したと発表。佐野氏はキャンペーン賞品の模倣を認め謝罪
	9月1日	エンブレム白紙撤回が決定
	11月24日	新たなエンブレムの公募開始
	12月7日	公募締め切り。応募総数は1万4599作品
	15~17日	1次審査で候補が311作品に
	18日	旧エンブレム選考過程の調査報告書で、一部の不正投票を認定。佐野氏の作品が選ばれたことへの影響は否定
	21、22日	2次審査で候補は64作品に
16年	1月 7~9日	本格審査で候補が4作品に
	3月28日	国内外の商標調査で問題が生じた作品を除外、改めて最終候補4作品を決定
	4月8日	最終候補4作品を公開
	25日	「組市松紋」の作品Aを新エンブレムに決定

デザインの名前は、「組市松紋」。江戸時代に市松模様として広また千葉木柄をベースにしている。そこで、日本の伝統模様を調べてなぜこのデザインが気になるのか探してみることにした。

東京五輪のエンブレムに決まり、「組市松紋」に対しては、デザインの好き嫌いという意味で賛否両論あつた。ぼくも正直「え？」これなの？」と思つた。

ぼくは作品Bがいいんじゃないかと思つたので、

決まりエンブレムのデザインをじとながめていたら、でも何か気になる。

ゆかたの模様に使って、お土産にしたらいいのではないか。うちわのデザインにしたらぴたりだな。次々とイメージがわいてくる。

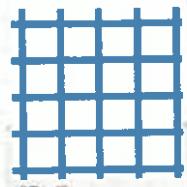
①日本の文様を知る

A.連続文様

英語では、「文様」は、pattern(パターン)。この語の語義は、「真似されるべきもの」であり、そこから、基本になるかたちという意味が出てくる。そして、基本になるかたちを繰り返す文様が多いために、パターン=文様、という考え方をするようになった。

規則正しい繰り返しは、文様の基本のひとつである。連続文様としては、点や線、円や矩形など、抽象的な幾何学図形を繰り返すものが中心。

また、つる草をモチーフにした一見不規則な唐草文様も、基本形が反復するという点では、一種の連続文様と考えられる。



格子 (縦)



石巻 (正方形)



鯉 (三角形)



唐草

B.絵画的文様

日本の文様には、非常に絵画的な要素が多い。江戸時代までは、画家という身分や仕事が確立しているわけではなく、絵師は、絵画だけではなく、文様の下絵も描いた。そのため、江戸時代の着物の柄の中には、絵師が手がけた文様がある。



江戸時代後期の絵師酒井抱一が描いた小袖の文様。まるで一絵の掛軸を見るようである。抱一は墨物だけでなく詩詠の手稿などにも文様を提供している。
白地梅術下草模様描絵小袖 (酒井抱一)
国立歴史民俗博物館蔵 江戸

C. 名称と構成

文様の名称は、そのまま文様の成り立ちを表している場合が多い。

◎ モティーフを加工したもの…「丸・捻じ」



◎ 文様の配置をあらわすもの…「散らし・繋ぎ・尽くし」

散らし
基本形となるものをはらはらと全体に散らすように配置する。



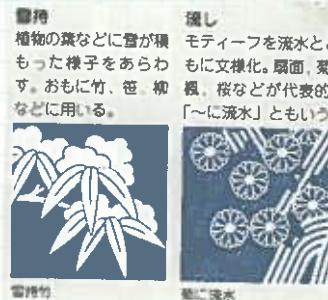
繋ぎ
基本形となるものを縦横斜めにすき間なく並べた文様。一部を欠けさせたり、全体にアレンジを加えると「破れ」や「崩し」になる。



尽くし
同種のモティーフを真めた文様。吉祥や、かたちの面白さ、季節感の表出などを意図する。宝尽くし、貝尽くしはじめ、虫尽くしや掛物尽くしといった奇抜なものもある。



◎ モティーフの組み合わせ…「雪持・流し」



◎ 全体の構成を表す表現…「段・片身替・～取り」

段
横綱状に文様を替える構成。一定の幅で段を造えて石畳状に区切ったものは段替といつ。



片身替
基本的には着物の構成で、片身頃に別々の文様や色を配したものという。



～取り
雲や洲浜といったモティーフで不定形に画面を区切る構成法。画面に変化を与え、遠近感を生み出す効果もある。「雲取り」「洲浜取り」「雲取り」などがある。



※以上のような文様の構成に、いくつかのモティーフを組み合わせることで、さらに、新たな文様を生む。組み合わせの意外性も、日本の文様の面白い点。また、異質の組み合わせも見られる。

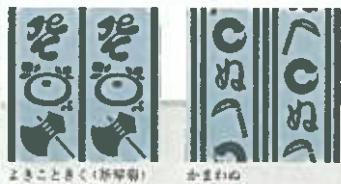
D.遊びの精神

日本の文様は、遊びごころにあふれたものも多い。

江戸時代には、判じ絵と呼ばれる描かれた文字や絵からその意味を当てる絵解形式の絵画が流行した。こうした傾向は、文様の世界にも及んだ。

⑨語呂合わせの役者文様

- 歌舞伎役者が特によく用いた。



※ このように、遊びの要素が強い文様は、知的なものから、馬太洒落的なものまで、日本の文様の基層のひとつとなっている。

◎戯作者山東京伝の遊び小紋

何が小紋として散らされているのか一瞬考えさせ、それが何か分かつ時、思わずニヤリとする仕掛けになっている。



◎葛飾北斎の新型小紋

浮世絵師葛飾北斎は、小紋のためのデザイン帳を編みましたが、そこに収録されている図案にも、伝統的なかたちを崩して新しい文様を生み出す創意工夫が見られる。



②時代による変化

A.飛鳥・奈良時代

この時代は、海を交流がさかんであたので、文様についても、東南アジア、あるいは西アジアも含めたアジア全体のえいきょうを受けている。

③世界性・異国性の表れた文様

古代オリエントに見られるパルメットが西アジアを経て中国を経由する間に、唐の時代に全盛を迎えた唐草文と融合し変形したものが日本に伝わったと考えられる。



聖霊寺金堂の薬師如来像台座上部にほどこされたもの。力強くのびた葉に茎と葉房を交互に配する。輪動は一般に生命と豊饒を象徴する。その文様は古代ギリシャで発生し、シルクロードを経て中国から日本へ伝わった。

聖霊寺 薬師如来像台座 東京都立 白鳳

唐草



風呂敷の文様としてなじみのある線を主体とした唐草文。



鉄錆は細い葉状の茎をもつ中国原産の植物で、古くから日本で栽培された。花びらに見えるのは萼。
片身 鋸鉄錆唐草扇面模様錦
東京国立博物館蔵 桃山

④想像上のモティーフによる文様

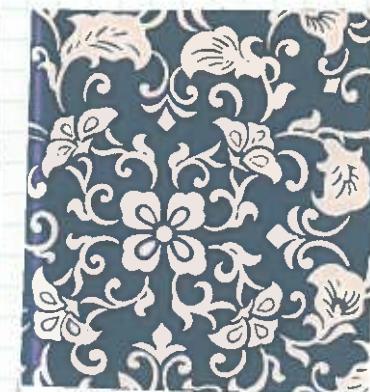
この世ならぬもののパワーを得ようと願う古代人の感性があると言える。

龍



龍の尾と頭をつりげ。円形に全体の構成をあらわす。
植物見本
株式会社井筒貿易
現代

宝相華(楽園に送る空想の花)



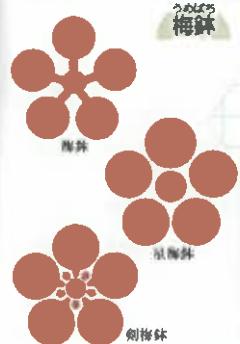
安倍晴明が呪符に用いたことから晴明神社の神紋となつた。西洋ではペントагラムと呼ばれる。やはり魔除けの意味をもつ。

◎幾何学的な文様

B. 平安・鎌倉時代

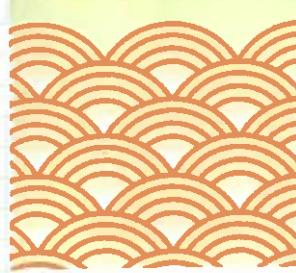
平安時代に入ると、文化の^{なまこまな}面で、和様化と呼ばれる現象が起^こる。異国的なものから、身近なものへ目を向けるようになり、日本的な感性と、美意識を積極的に表現している。

◎自然や、身近な動植物の文様

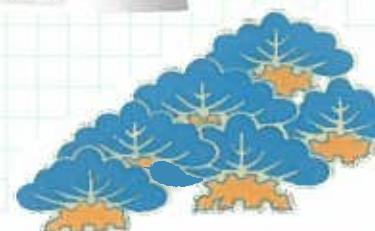


梅鉢
星梅鉢
劍梅鉢
梅鉢
星梅鉢
劍梅鉢

梅の花を上から見たかたちを単純化して表現したもの。中心円の周りに円形の花びらを五枚並べる。劍梅鉢、星梅鉢などの種類がある。梅が写実的に描かれるより早い時期に文様化されたといわれる。



雪舟も作った
雲持笛
雲の半形をのせて雲持として文様化したもの。雪を置いた笛や竹の文様は瑞祥文である。
紅白段山は荷葉錦文
と化学樹脂博物館蔵 (山)



松の葉巻を笠に見立てて図案化したもの。いくつか重ねることで重厚感を表現する。
青松地雲松 桜文書院
水青文書院 江戸



一般に木瓜文といわれるがたら。



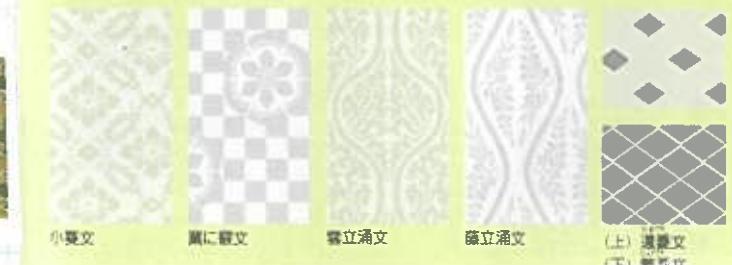
三つの龜甲を組み合わせた輪郭線を基本とした文様。毘沙門天の甲間にみられる。

◎有職文様

有職とは、宮廷関係の儀式や官職、年中行事などに関する装束、調度をはじめとする一連の知識のこと。

おもな有職文様の使用例	
網竹鳳凰文	天皇の袍(脚旗が加わる場合もある)
浮蝶練文	皇族の下著、狩衣、袍、衣、裳など
菱文	追森文 下著、袍、袴、居衣、单など
	繁菱文 天皇の单、袍
	幸菱文 皇后、女官の冬用单
渾文	四益三重渾文 引襷、天皇の衣、皇族の裳、圆衣、狩衣、馬繆文 指貫など
立涌文	云立涌文 袍、皇族の指貫
	織立涌文 皇后の冬用五衣
	松立涌文 皇族妃の冬用五衣
實に藤文	皇族の表袖、大膳、冬用引履、皇后、女官の冬用裳袴
小葵文	天皇、皇子の下著、袍、應衣、袍、引圓衣、衣、裳など
桔梗文	孝用几帳

参考資料:『東洋服飾文化』(吉古・飛鳥・奈良) (新日本新聞社)



小葵文

實に藤文

織立涌文

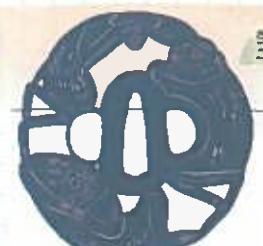
(上) 遊藝文

④ 戦国文様・南蛮文様

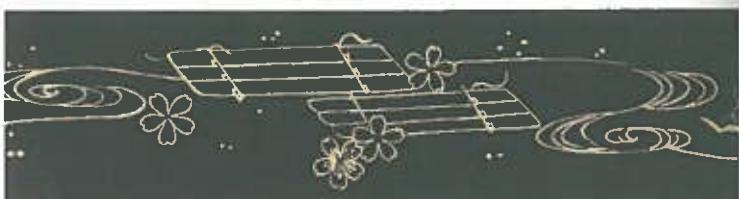
C. 室町・桃山時代

室町時代の前期には、禅宗が普及し、それとともに茶、水墨画、などの文化がじだいに定着していった。戦国武将たちが登場し、新しい価値観が、新しい文様を生み出すことになった。また、海外との交易も活発になり、南蛮文化も流入した。

⑤ 身近な動植物・器物



源氏車



高台寺・御靈廟階段にほどこされた装飾。川面に散る桜が波とともに流れるおだやかな春の情景で、流水の繊細なラインがはんなりとした男団気を醸している。豊臣秀吉が盛大な桜見をおこなった吉野の川をイメージしているともいわれる。
御靈廟、高台寺藏 桃山



「水玉」
伊達家の家紋 竹 雀紋が金糸で刺繍されている。
「縞背板五色水玉襷縞羽織」
仙台市博物館蔵 桃山



「帆船」
縞地で背中に大きな赤い帆船、袖口の三角模様「籠山文」の組合せは異國情緒を感じさせる。加賀藩八代謙徳公所用。
「帆船文陣羽織」 前田育德会蔵 江戸



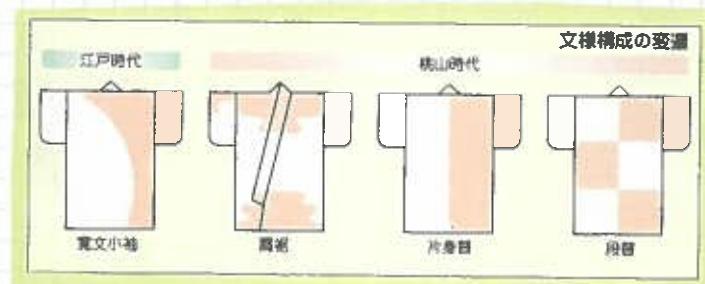
「HS」
ラテン語でイエスの名を示した文字「HS」が文様になっている。おもに布教の道具に用いられた。
「HS萬能螺旋錦」 南蛮文化館蔵 桃山



印籠の根付に描かれた煙草をふかす南蛮人。
「ウンスンカルク西絵印籠」 模付
国立歴史民俗博物館蔵 江戸



⑥ 大胆な文様構成…段 桃山時代に好んで用いられた文様構成の一つか。



◎気象文様

D 江戸時代

江戸時代には、対外的な交流が制限された。南蛮文化ははじめに影をひそめ、わが国独自の新しい美意識による斬新なデザインが生まれた。庶民も文化の担い手になった。

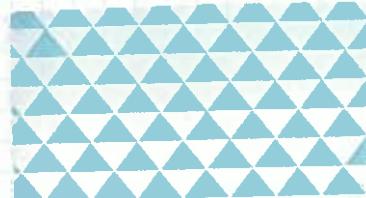
また、江戸に幕府が移されることにより、京と江戸、大坂という三都ができ、参勤交代により諸国と江戸との文化的な交流もさかんになった。このように、文化が地理的にも階層的にも広がりを見せることが大きな特色である。

◎光琳文様

…尾形光琳の名に由來した名称。



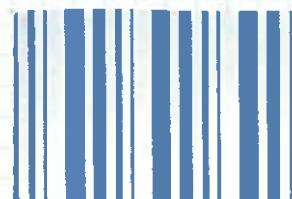
◎幾何学的な文様



鱗(うろこ)



矢絣(やがすり)



縞(しま)



麻の葉
(あさのは)



唐棟
(こうざん)

基本的地色は、紺、淺葱、茶で、そこに赤や青が入る。微妙な色の違いや太細によって、さまざまな表情をみせる文様である。

◎尽くし文…モチーフを集めたデザイン



貝尽くし

さまざまな貝のかたちの面白さを楽しんだ。



虫尽くし

蝶や蜻蛉、壁など身近な虫が、織糸、蝶糸などの諸技法を駆使して写実的にあらわされている。
虫尽印籠
糸錦高山田良美美術館蔵
江戸

宝尽くし



宝珠、打出の小槌、隠れ蓑、隠れ笠、宝巻、円子巾着。丁字など日本の宝尽くしによく登場するモティーフのほか、八宝のひとつ法螺や楽器（笙・びんざさう・鏡鉢）なども含まれている。



打出の小槌 大黒天などの特物で、打ち振ると財宝など豊かなものが出てくる小槌。



分鈴 天秤で重さを量る際に使用するおもり。



隠れ笠・隠れ蓑 被れば姿を消して身を守ることができる。



生珠 如意宝珠ともい、望むもの得意のままに出す宝の珠。時に火炎が描かれる。



宝巻・巻輪 貴重な経典や仏伝を書いた巻物。書籍や骨董を納める箇守（かじま）があることもある。



宝鑰 財宝を守る鍵。



金庫・布袋 お金を入れる財布としてだけでなく、お守りや香料などを入れる袋もある。中国の八宝にも含まれる。



丁字 稀少価値の高い音料で羹にも用いられたスパイスのクローブ。中国の八宝にも含まれる。



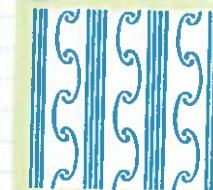
高麗慶格子

高麗慶松本泰四郎が舞台の衣装で使用したことからできた格子。
根付 花山川（春好斎北洲）上方浮世絵館蔵
江戸



かまわぬ

「鏡」（鏡）「ぬ」を組み合わせて「かまわぬ」と読ませる文様。
京島 桃人氏（春好斎北洲）上方浮世絵館蔵
江戸



芝端

四本の界と「羅」で「しがん」と読ませる文様。

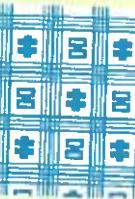


三柄羅

三個の正方形を入れ子にした図形の文様。初代市川団十郎が考案した三柄文のアレンジ。

三津大綱

三代目坂東三津五郎の定紋が「三つ大」であったことから、三本の棒と「大」の字を使用した綱をいう。
柳原御作賀絵（歌川豊国）上方浮世絵館蔵
江戸



菊五郎格子

四本と五本の線の格子のなかに「丰」と「呂」の文字を配して、「菊五郎」と読ませる格子文様。

いのくに名四谷折詠（桜山秀斎）上方浮世絵館蔵
江戸



六弥太格子

八代目の市川団十郎が「六弥太」を演じた際に使用したことからいた格子名。



中村格子

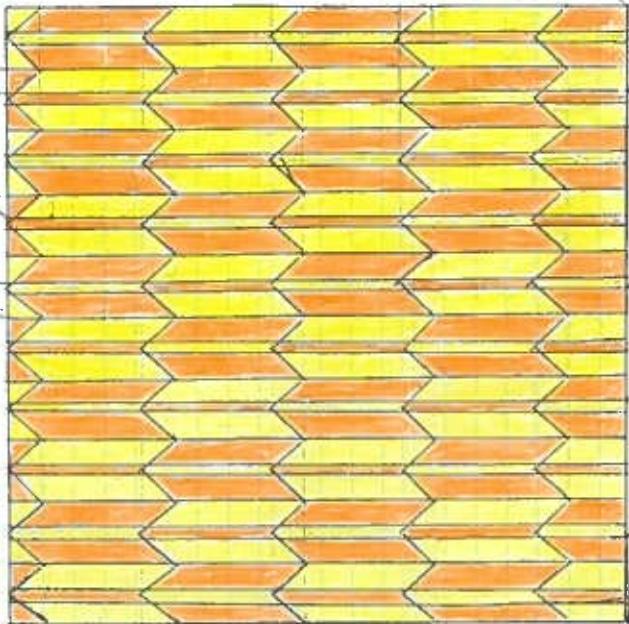
三本線の格子のなかに「中」と「ら」の文字を入れて「中心ら」と読ませる文様。

↑:上のハフが左上の皿にすべて描かれる。

③伝統文様を描いてみる

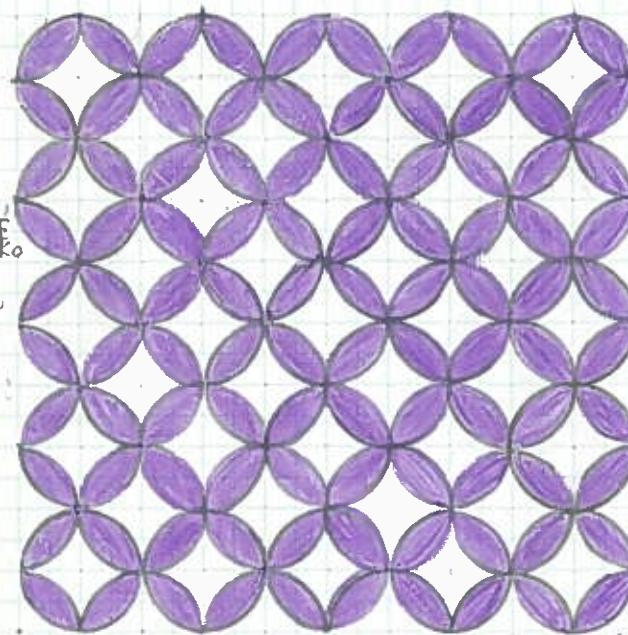
矢
や
羽
がのり
根
ね
紺
くず

矢羽根の矢を連続させて、文様にしたもの。矢は射ると戻ることないから、縁起の際の縁起ものとして使われてきた。今では、卒業式の袴<はかま>と合わせて着物柄によく使われる。



し、ほう
七宝つなぎ

円を重ねていく
たてひ、で見る
日本の伝統模様。
古来から、外国でも
使われてきた。

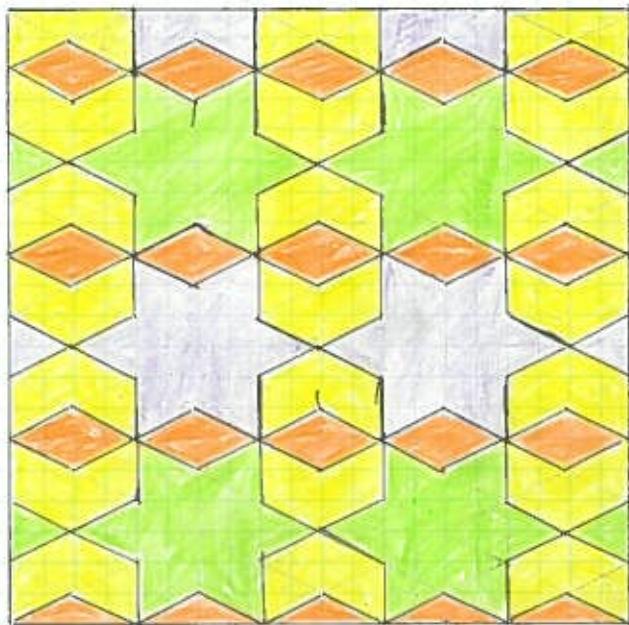


- 描き方
1. 一边が10cmの正方形を描く。
 2. 上から4mm、1mm、1mm、4mmをくり返しながら、水平線を描く。
 3. 右から5mm、15mmをくり返しながら垂直線を引く。
 4. 垂直線と水平線の交点を結んで、ななめの線を描く。
 5. 模様をペンで引き、余分な線を消し、色をぬって完成。

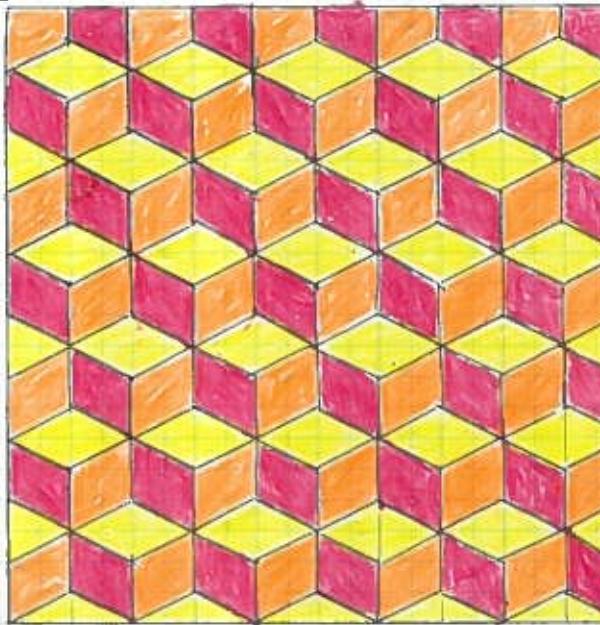
- 描き方
1. 一边が10cmの正方形を描く。1cmごとに垂直水平の線を描く。
 2. 半径1cmの円をマス目ごとに描く。
 3. 最初のななめ1cm下に下した所に中心をとり、円を、重ねて描いていく。
 4. 10cmの正方形の中全部に上図のように円を描いていく。
 5. 余分なマス目を消し、色をぬって完成。

④幾何学模様を描いてみる ~ひし形模様~

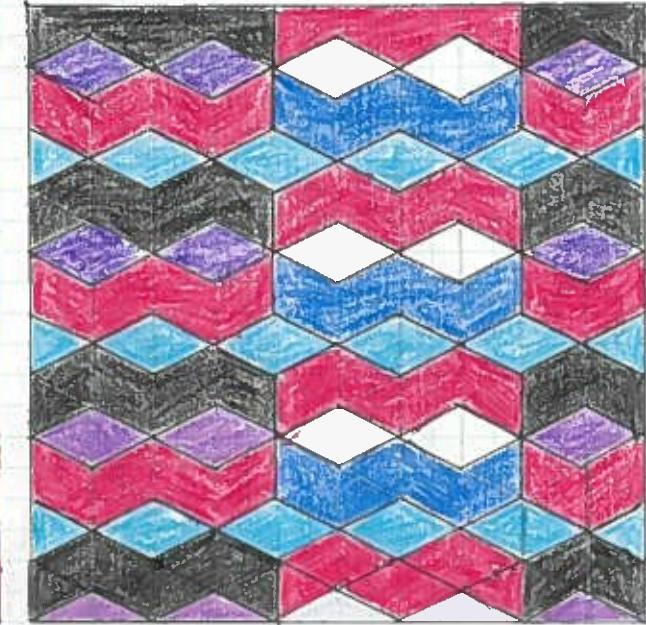
A



B



C



描き方 1. 一边が10cmの正方形を描き、
1cmごとに垂直・水平に線を引く。
2. マス目を作る。
2. 右図のように、しゃ線を引く。→図1
3. 右図のように、反対からしゃ線を
引く→図2
4. 必要な線をペンで上書きし、
余分な線を消す。
5. 色をぬって完成。

図1



図2

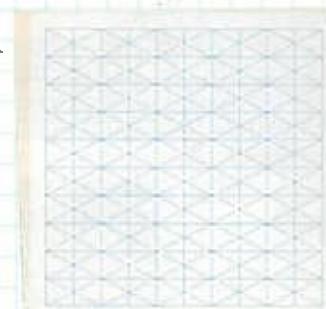


図2のぶたひし形模様は、組み合わせや、ぬり方を変えると、色々な模様に変化するとも面白い图案です。

上のA、B、Cの模様は、どれも図2から作った模様です。

⑤コンパスで三巴(みつともえ)を描いてみる

図1

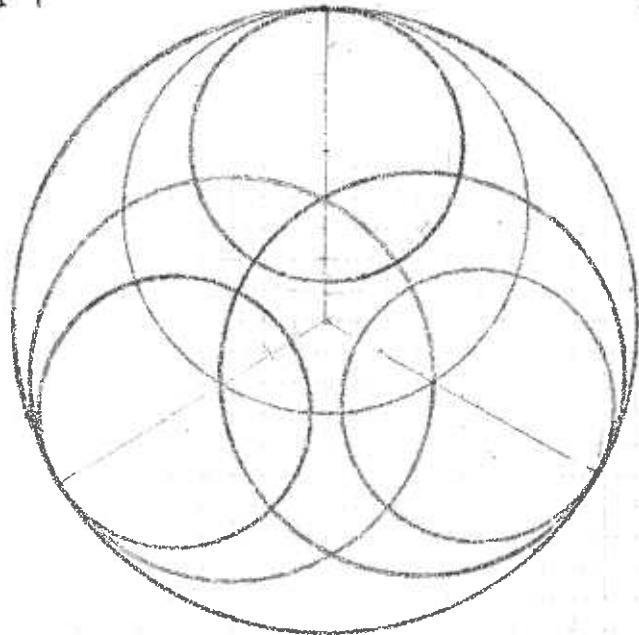
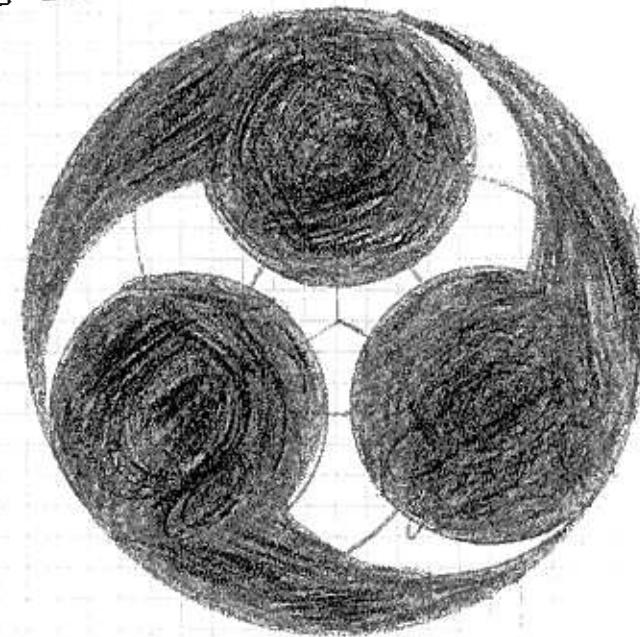


図2

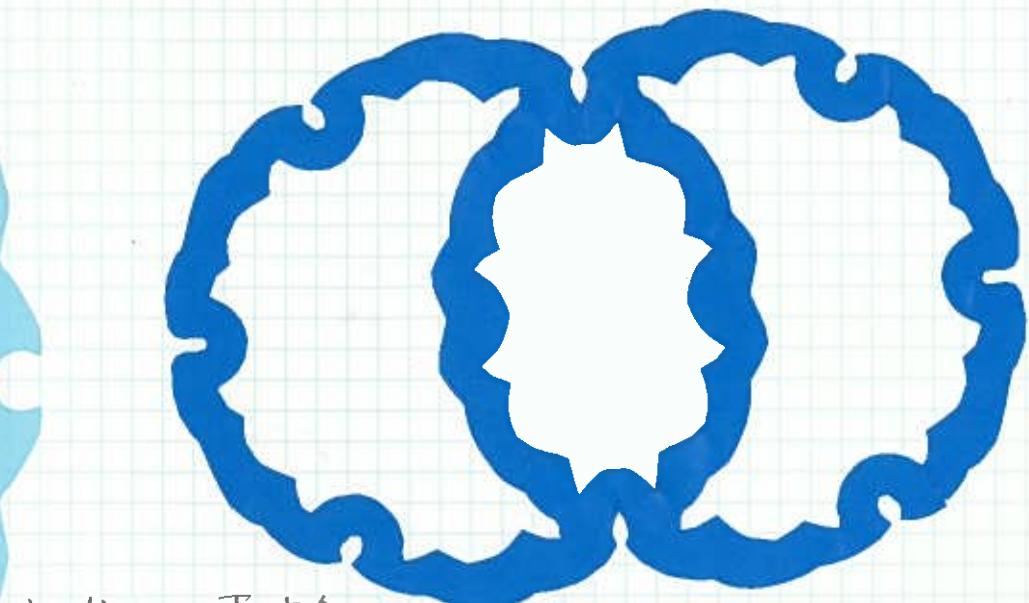
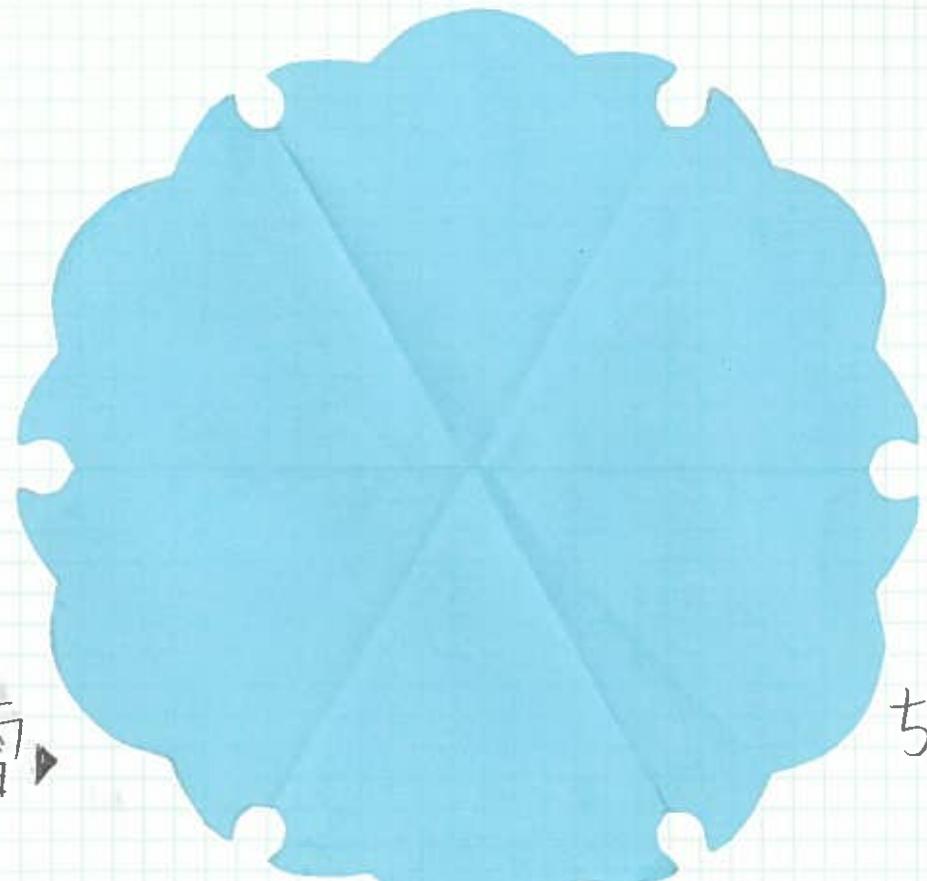


巴(ともえ)文は、アジア全土において古くから存在し、その起源には諸説ある。その形から、水の渦巻く様子という説や、へびがとくろを巻いてくる形、電光の走る様子、あるいは勾玉の形という説もある。日本では平安時代後期から鎌倉時代に流行し、身の回りの品々の装飾文様として好まれた。

- 描き方
1. 半径5cmの円を描く。
 2. 半径の線をとり、そこから円を3等分する 120° の線を2本描く。
 3. この線の上に中心をおき、外円に接する半径3.3cmと半径2.3cmの円を描く。
(図1参照)
 4. 図2のように色をめり、余分な線を消して完成。

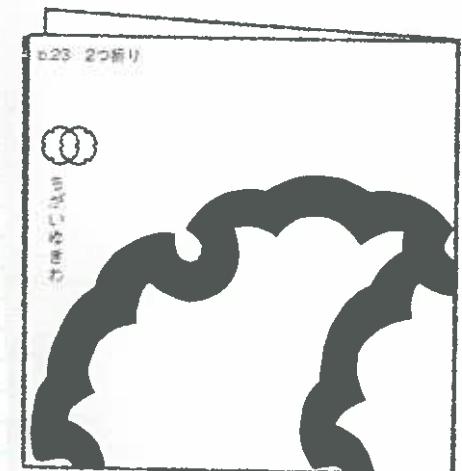
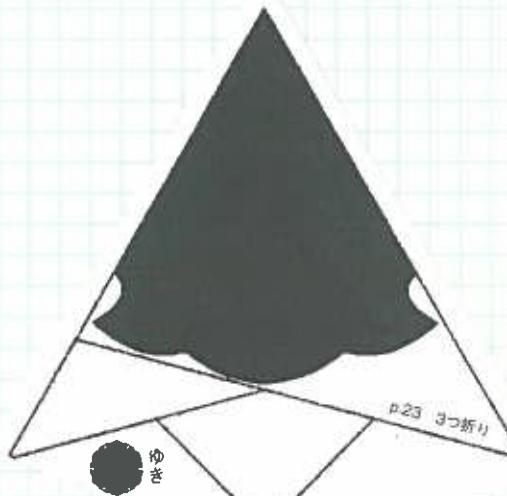
⑥もんきりかた(紋切刀型)に挑戦

※江戸時代、紋を描く職人の技術とに工夫された。



ちがい雪輪▶

古来、「雪月花」という言葉があるように、春の桜、秋の月、となりび、冬の景物として、親しまれてきた。雪が豊作の前兆と信じられてきたことから、吉兆を表す文様としても用いられた。



作り方：紙を折りたたんで、型紙のとおりに切り抜く。

⑦調べて分かったこと

ぼくたちがふだんよく見かける模様の中には、日本の伝統文様が多くふくまれている
ということ分かった。それらの伝統文様には、それぞれに歴史があり長く人々に使われることによって、
時代、時代によって、色々なえいようを受けたり組み合わされたりして変化して続いている。
文様には、それぞれ、名前があり意味がある。意味によって使い分けられる文様もある。
文様は、時代ごとに文化に合わせて沢山作り出されていることも分かった。
の中でも、シンプルでは、きりとした意味をもつもの、生活に近い文様ほど、長く愛されてきている
と感じた。
実際に描いてみると、とても致密で簡単さに見えても意外と複雑しかった。同じ図案から、様々な
模様へ展開できるものもあり、デザイナーの世界の面白さ、奥深さを感じた。

参考資料

- 『日本の伝統文様～名品で樂しむ文様の文化～』 東京美術
- 『きれいな模様の描き方』 おまけたらかく舍
- 『つとも文様すかん』 平凡社
- 『デザイントートNO.67～色と模様と和のデザイン』 誠文堂新光社
- 中日新聞(2016年4月26日朝刊)
- インターネット(Yahoo!)
- 図書館名：豊田市中央図書館



おわりに

東京五輪のエンブレムをデザインした野老(とよ)さんが大名古屋ビルディングの外装をデザインしていると知り、見に行きました!

大名古屋ビル外装もデザイン

野老朝雄さんは、昨年秋に名古屋駅前で完成した高層ビル「大名古屋ビルヂング」外壁に取り付けられたガラスの模様写真もデザインした。ビルを建てた三義地所によると、野老さんが手掛けたのは二四階の外壁に取り付けられたガラス二千六枚（高さ二六・六㍍、幅一・六㍍）の模様。複数の三角形を無数に組み合わせたデザインが七パターンあり、ガラスに印刷してある。

このビルは緑の丘の上から、空に伸びる大樹」をコンセプトに設計され、キラキラと輝く緑の丘を表現するのにガラスが用いられた。三義地所は「同じような形を組み合わせたデザインが得意」と野老さんに依頼した。五輪エンブレムも三種類の四角形を組み合わせたデザインだ。広報担当者は「縁のある人の作品が採用され、大変うれしい」とコメントした。



「緑の丘の上から空に伸びる大木」が、ビルのコンセプト。

アボくです。



キラキラと光る緑の丘を表現。

一見シンプルすぎる様にも見えるデザインだけど、建物のコンセプトに合った美しさを感じた。街の風景や店のインテリアのじゃまをせずとけこんでいる様子が美しさのもとではないかと思った。野老さんの作品であるエンブレムもこの外装もシンプルさや人に人々の心にとどまり、人々の思いをまたげず時代に愛されて残る、いいデザインだと思う。

そこから伝統文様と共通する点だ。伝統文様から生まれた「組市松紋」だから、ぼくの心にひかれて気になってしまったがなかたのかかもしれないと思えた。

